

令和 7 年 1 2 月 2 3 日

鳥取市教育委員会

教育長 河井 登志夫 様

西郷地区の教育を考える会

会長 吉田 修

要望書

西郷地区の教育を考える会は、平成 30 年 11 月に河原地域においていち早く設立し、西郷小学校の継続した発展のため、地域が一丸となって様々な活動を行ってきました。

その後、町内の他校区においても教育を考える会が立ち上がりましたが、他の校区では、統合等を肯定する要望書が提出されている状況にあります。

西郷地域における保育園、小学校の保護者アンケート結果等を踏まえると、当会としても「将来的に統合等は止むを得ない」と認識していますが、会が立ち上がった際の思いとは真逆の方向に向かっていること、また、通学方法や放課後児童クラブの在り方など、不確定な要素が多いことなどから、現時点で統合等に関する最終的な判断は出来ない状況です。

しかしながら、南ブロックにおいて、西郷小学校区の意向を表明する必要性が生じていることから、将来的に統合等を判断する際の、当会としての考えを下記の通り記載し、要望書として提出します。

記

1. 将来的には、小学校再編は止むを得ないと考える。但し、その場合は河原町内の小学校との統合を希望する。

(理由) 保護者アンケートの結果は、統合等を希望する回答が多いこと。また、児童数の減少により、複式学級を導入している状況であり、将来的に小学校の再編は止むを得ない。子供の通学の負担を考えると河原町内での統合が適切である。

2. 統合後の学校の位置は、バス通学を想定したバス路線沿線を希望する。

(理由) 校区が広がる統合は、バス通学の対象となる地域が増加することが想定されるため、学校の位置は、通学路の安全確保の視点からバス路線から離れない場所を希望する。なお、公共交通機関での対応が困難な場合は、スクールバスの運行を要望する。また、児童の送迎に配慮した交通環境を整備されたい。

3. 将来的には新たな校舎を希望する。

(理由) 少子高齢化が進行する中、河原町内の公共施設のあり方等について検証が行われ、再編計画が進んでいますが、学校施設の検討も希望する。活用できる既存校舎があれば当面の間活用することは必要と考える。

4. 義務教育学校については、河原町内全体で組織する検討会での協議を希望する。

(理由) 義務教育学校については十分議論されていない。中学校の適正規模を踏まえた上での協議が必要と考える。

5. 各小学校区からの意見等を元に早急に学校統合に関する不確定な要素を明確化することを要望する。

(理由) 統合等の是非を判断するうえで、通学方法、放課後児童クラブ等の方向性が定まらないと判断することは困難である。西郷地区の教育を考える会として西郷児童クラブの存続を強く要望する。

6. 西郷小学校における地域との連携は、可能な限り継続していただきたい。

(理由) 西郷小学校は、お茶碗給食などをはじめ、シイタケ植菌、しめ縄講習会、ふるさと先生の指導による、様々な体験学習を行っている。統合後の学校においても可能なものは積極的に続けていくことを要望する。